

令和5年度 社会福祉法人 調布市社会福祉協議会
登録手話通訳者選考試験一般常識問題

I 次の設問を読んで、あてはまるものを選んで答えなさい。

(1) 調布にある聴覚障がい当事者団体の正式名称を1つ選びなさい。

- ①調布聴覚障害協会
- ②調布市聴覚障害協会
- ③調布市聴覚障害者協会
- ④調布市立聴覚障害者協会

(2) 上記の団体が発行している機関誌の正式名称を1つ選びなさい。

- ①調聴協だより ②調聴協通信 ③調聴協新聞 ④調聴協ひろば

(3) (4) 以下の空白に適切な数字を入れなさい。

現在、日本にあるろう学校のうち、国立（こくりつ）のろう学校は（3）校、私立のろう学校は（4）校あります。

(5) 2025年に予定されているデフリンピックで、調布市は以下のどの競技が開催されると言われているか1つ選びなさい。

- ①バレーボール ②サッカー ③バスケットボール ④バドミントン

(6) 「ジェスチャーノ」の説明として当てはまるものを1つ選びなさい。

- ①身振り ②共通手話 ③国際手話 ④視覚表現

(7) ～(10) 手話に関する説明のうち、正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。

- (7) 手話は、世界共通の言語である。
- (8) 手話は、聞こえる人が文法等を考えて作った言語である。
- (9) 手話は、現在、すべてのろう学校の授業で必ず使用されている。
- (10) 手話は、すべての聞こえない人にとっての母語である。

II 次の設問を読んで、あてはまるものを選んで答えなさい。

(1) 次の慣用表現から誤った表現のものを1つ選びなさい。

- ①出る杭は打たれる
- ②下手な考え休むに似たり
- ③濡れ手で粟
- ④武士は食わねど高楊枝

(2) 下線部の漢字の表記が正しいものを1つ選びなさい。

- ①会員の皆さんが一同に会する
- ②その件で最大もらさず報告した
- ③今の季節は書き入れ時だ
- ④機嫌の悪い人の関心を買うことは大事だ

(3) 政府が行う「ODA」の日本語訳として正しいものを1つ選びなさい。

- ①政府開発援助
- ②海外協力支援
- ③海外開発援助
- ④政府開発機構

(4) 「手話通訳士倫理綱領」に示されている事項は次のうちどれか、1つ選びなさい。

- ①使命感を持って聴覚障害者に奉仕し、聴覚障害者の人権を擁護すること。
- ②規律を厳正に保持し、相互の連帯を強めながら、業務の改善・向上に努める。
- ③職務上知りえた聴覚障害者及び関係者についての情報を、その意に反して第三者に提供しない。
- ④清廉にして堅実な生活態度を保持し、反社会的な目的に利用される結果とならないよう、常に検証する。

(5) 次の記述が正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。

2022年9月に施行された東京都手話言語条例の中には、学校における支援については盛り込まれていない。

Ⅲ 次の設問を読んで、正しい内容を答えなさい。

(1) 調布社協は団体設立以来「住民主体による福祉コミュニティづくり」を使命に様々な活動に取り組んでいるが、「住民主体による福祉コミュニティづくり」の説明内容について適切ではないものは何か、1つ選びなさい。

- ①地域の福祉を推進していく基本的な主体は地域住民である。
- ②住民が身近な地域における福祉について関心を持ち、福祉活動に参加する。
- ③地域住民が相互に人格と個性を尊重し合いながら、参加し共生する地域社会を実現する。
- ④一人ひとりの地域での暮らしは、行政や専門職・企業等の各機関のみで支援する。

(2) 調布市社会福祉協議会は、ボランティア・市民活動を推進しているが、説明内容として適切ではないものは何か、1つ選びなさい。

- ①ボランティア・市民活動は、自分の自由な意志で取り組む活動である。
- ②ボランティア・市民活動は、自分以外の他者や社会の利益のために取り組む活動である。
- ③ボランティア・市民活動は、社会の課題解決のため参加義務のある活動である。
- ④ボランティア・市民活動は、新しい社会の仕組みやサービスが生まれる可能性のある活動である。

(3) 令和4年12月に「調布市福祉まつり」が3年ぶりに開催されたが、本年度の「第45回調布市福祉まつり」のテーマについて、正しいものを1つ選びなさい。

- ①「いつまでも住みつづけたいと思うまちづくりをめざして」
- ②「ここがいい ここでいい わがまち調布 これからも」
- ③「あいはこちらから みんなで作ろう調布のわっか」
- ④「あいはこちらから つなげよう未来へ」

(4) 調布市社会福祉協議会の手話通訳者派遣事業は、障害者総合支援法の地域生活支援事業の1つであるが、地域生活支援事業の説明内容として適切なものを1つ選びなさい。

- ①地域生活支援事業は、地域の特性や利用者の状況に応じ、柔軟な形態により計画的に実施する市町村等の事業である。
- ②意思疎通支援事業は、地域生活支援事業の1つであるが必須事業ではない。
- ③日常生活用具費支給事業は、地域生活支援事業の1つであり身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方のみが対象である。
- ④地域活動支援センター事業は、地域生活支援事業の1つであり、調布市内に2か所設置されている。

(5) 調布市の福祉避難所に関する説明文について、正しいものには○を、誤っているものには×をつけなさい。

調布市地域防災計画において、避難所等での生活が困難な高齢者や障害者などの要配慮者のための避難場所として、地域福祉センター及び老人憩いの家の公共施設のほか、複数の特別養護老人ホーム等が民間協定施設として福祉避難所（二次避難所・震災時指定避難所）に指定されている。